

## 問題

次の日本文の意味を表すように、カッコ内の語(句)を並べ換えて全文を記せ。(12点)

- (1) 僕のエッセイを書くために使った、本を君に見せてあげるよ。(3点)

I'll [my / books / used / the / I / show / to / you / essay / write].

- (2) 彼女は自分の留守の間、妹に赤ん坊をみてもらった。(3点)

She [care / while / take / had / sister / her / absent / baby / she / was / her / of].

- (3) 彼がくれた薬は効かなかった。(3点)

The [he / turned / useless / medicine / gave / out / has / me].

- (4) 彼はその料理ができ上がる前に味見してみようとした。(3点)

He [done / before / the / tried / it / taste / was / to / dish].

## 解答

- (1) I'll show you the books I used to write my essay.  
 (2) She had her sister take care of her baby while she was absent.  
 (3) The medicine he gave me has turned out useless.  
 (4) He tried to taste the dish before it was done.

## 解説

- (1) 「僕は本を君に見せてあげるよ」という骨格を先に組み立ててしまおう。カッコ内に show があることから、'show 人物' ('人'に'物'を見せる) という第4文型の文にする。すなわち、I'll show you the books となる。余った単語で books を修飾する「僕のエッセイを書くために使った」という表現を作る。「(僕が)使った本」は関係代名詞を使って the books (which ; that) I used で表せる。the books と I used の間には、目的格の関係代名詞 which もしくは that が省略されている。「僕のエッセイを書くために」は「目的」を表す不定詞を使って to write my essay とする。
- (2) 「みてもらった」という日本文から、「…してもらおう」という意味を表す使役動詞 have を思い出してほしい。'have O 動詞の原形' という型に当てはめて、She had her sister take care of her baby という形を作る。take care of ~ は「～の世話をする」という意味。残った単語で「自分の留守の間」という従属節を作る。while は「…の間」という「期間」を表す接続詞。absent は「留守にして」という形容詞。
- (3) 「薬は効かなかった」という骨格を先に組み立ててしまおう。カッコ内に turned out (～と判明する) があることから、The medicine has turned out (to be) useless (その薬は役に立たなかった〔効かなかった]) という形にする。to be は省略可。次に、「薬」を「彼がくれた」が修飾する形にするが、残った単語から The medicine he gave me と

いう表現ができる。‘give 人物’（‘人’に‘物’をあげる）の‘物’が the medicine として前に出ている形で、he の前に目的格の関係代名詞 which か that が省略されている。

なお、‘turn out (to be) C’は「(結果として) Cであるとわかる」という意味だが、現在完了形にすると、さらに結果のニュアンスが強調される。ここでは「薬をもらった時には期待したが、実際は効かないという結果に終わった」という含みが出ている。

- (4) 「…しようとする」は try to … で表すことができる。「料理を味見する」は taste the dish と表す。この taste は「～を食べてみる；～の味をみる」という意味で、目的語をとる。「～の味がする」という意味の第2文型の taste とは用法を区別して覚えたい。

Ex. Sugar *tastes* sweet. (砂糖は甘い。) / *Taste* this sauce and tell me if I need to add some more salt. (このソースを味見して、もっと塩を加えた方がいいか教えて。) (CIDE)

「でき上がる前に」は、before it was done で表すことができる。～ be done で慣用的に「～ができ上がる」という意味がある。料理、工作、手芸などに広く使える表現。

Ex. The soup *is* almost *done*. (スープはほぼでき上がっている。)

◀ 過去のことなので was となっている。